研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-520		20-098	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Frequency, Trend, Predictors, and Impact of Gastrointestinal Bleeding in Atrial Fibrillation Hospitalizations

心房細動による入院患者における消化管出血の頻度、傾向、予測因子およびインパクト

執筆者

Dave M, Kumar A, Majmundar M, Adalja D, Shariff M, Shah P, Desai R, Patel K, Jagirdhar GSK, Vallabhajosyula S, Gullapalli N, Doshi R.

掲載誌

Am J Cardiol. 2021 May 1;146:29-35. doi: 10.1016/j.amjcard.2021.01.020.

キーワード	PMID
心房細動、消化管出血、アルコール乱用	33529616

要　旨

目的：

抗凝固剤は心房細動（AF)患者における脳卒中リスクを減少させる。一方、消化管出血（GIB)は抗凝固剤の長期服用者における一般的な合併症である。本研究では、心房細動による入院患者における消化管出血の頻度、傾向、予測因子、臨床的予後および経済的負担について検討した。

方法：

米国最大の入院患者を対象とした National database (national inpatient sample: NIS)のうち、2005 年 1 月から 2015 年 9 月までの 18 歳以上の AF 患者データを用い分析した。AF 患者における GIB の有無による心疾患、腎疾患等の併発、アルコール乱用、在院日数、入院費などについて、t 検定あるいはカイ二乗検定により比較した。また、GIB を有する AF 患者における併発疾患、アルコール乱用等のオッズ比（OR)および 95%信頼区間（CI)をロジスティック回帰分析にて算出した。

結果：

全 AF 入院患者のうち、5.39%が GIB を有していた。AF 患者における GIB 有の割合は 2005 年から 2015 年で一定であった。GIB 無に比べ GIB 有で、うっ血性心不全、腎疾患、肝疾患、貧血およびアルコール乱用の割合は高く、在院日数は長く、入院費は高かった。また、GIB 有では、院内死亡（OR 1.47, 95%CI 1.46-1.48), 人工呼吸器装着（OR 1.69, 95%CI 1.68-1.70), 輸血（OR 7.2, 95%CI 7.17-7.22), アルコール乱用（OR 1.51, 95%CI 1.5-1.52)のオッズ比は高く、脳卒中(OR 0.51, 95%CI 0.51-0.52)のオッズ比は低かった。

結論：

National database を用いた本研究の結果から、AF 入院患者の 5.4%が GIB を併発していた。GIB 併発は、AF 入院患者の予後あるいは医療費と関連することが示された。